

CLAIRを活用した高山市の国際化施策について

岐阜県高山市学校教育課・海外戦略室

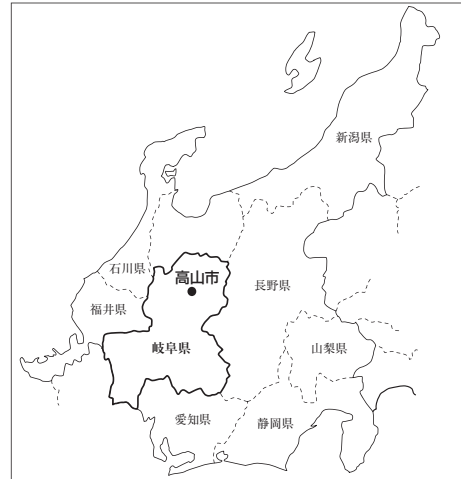
はじめに

高山市は、岐阜県北部の飛騨地方に位置し、3,000m級の山々に四方を囲まれた山岳都市です。2005年2月1日に周辺9町村と合併し、基礎自治体としては全国一の広さを誇る2177.67km²の市域に9万3,312人の人口を有しています（2011年4月1日現在）。

我が市では、教育委員会学校教育課がALT関係業務を所管し、この4月に新設された海外戦略室がCIR関係業務を含む市内の国際関係業務を組織横断的に所管しています。海外戦略室については、後段で詳述することいたします。

我が市の「国際化」の歴史を紐解くと、今から約半世紀前の1960年へと遡ります。この年に「山岳観光都市」という共通点を持つ我が市とアメリカ合衆国のデンバー市は姉妹都市提携を結びました。

CLAIR本部のホームページに掲載されている「姉妹都市提携一覧表（注1）」を眺めると、1955年に長崎市とアメリカ合衆国セントポール市との間に我が国初の姉妹都市提携が結びました。その5年後に、岐阜県下では初めて、全国的に見ても32番目に、山中にある我が市で姉妹都市提携が結ばれたことを思うと、先達の先見性と国際感覚に



中部地方における高山市の位置



写真2 デンバー市第一次親善使節団が1961年3月に高山市を訪問した際の模様

驚かざるを得ません。

その後も、我が市は、デンバー市との交流を深化させつつ、2002年3月21日に中国雲南省麗江市（当時は麗江地域）と、さらに、2009年10月9日には、ルーマニア・シビウ市との間で友好都市提携を結び国際的なネットワークを拡げています。また、2008年度には、我が市とデンバー市との間の姉妹都市交流に関して「姉妹自治体交流表彰（総務大臣賞）」を受賞するという大きな光栄に与りました。

前述したように、高山市は深い山々に抱かれており、外界との交流を行うにも眼前には高い「壁」が立ちはだかっています。しかしながら、我々高山市民の間にはこの「壁」を越えてやって来る外来者を温かく迎える「おもてなし」の文化・精神



写真1 高山市街地から乗鞍岳方面を望む

が古より高度に発展しており、また、外界に開かれた地の人々以上に我々は「壁」の外にある世界に憧憬を抱いてきたのです。このような土壌が近年の我が市の国際化を大きく推進させた背景にあるのではないのでしょうか。

高山市役所においては、1987年に企画調整部企画広報課内に「国際係」を設置したのを皮切りに国際交流・地域の国際化を推進してきましたが、これに大きな推進力を与えてくれたのは、「国際係」と軌を一にするように1988年に地域の国際化の推進のために「地方自治体の共同組織」として設立されたCLAIRに負うところが大きいです。以下では、CLAIRを活用した我が市の国際化施策について皆様にご紹介します。

(注1) 姉妹都市一覧表: <http://www.clair.or.jp/cgi-bin/simai/j/00.cgi>

ALTの活用

高山市では11名のALTを採用し、31の小中学校(小学校19校、中学校12校)へ派遣しています。彼らは担当の小中学校で担任や英語科の先生方と力を合わせ、新しく始まった外国語活動や時間数の増える英語科の指導計画の改善や授業の充実のために努力しています。

我が市のALTの活動の特徴は、学校での授業や行事等以外でALTが市内の子どもたちのために貢献していることです。その一つに、市の図書館で行われる「絵本の読み聞かせ活動」があり、毎月1回、第2土曜日に、2～3名のALTがボランティアとして図書館に集まり、英語の絵本の読み聞かせを行っています。未就学児を連れた母親を中心に毎回約50名程度が参加し、ALTの表現力豊かな読み聞かせを楽しむことができる、図書館の人気イベントとなっています。

夏休みには、市内の小学校5・6年生、中学校1～3年生を対象にした「イングリッシュシャワー」という行事を行っています。これは、約80名の小中学生の希望者が乗鞍青少年交流の家に集まり、1泊2日の間、ALTとともに英語を用いたゲームを行ったり、キャンプファイヤーを囲みながら、楽しくふれ合ったり、英語漬けの生活を体

験する行事です。ゲーム等のプログラムの企画運営は全てALTが行い、日頃学校の授業で培った指導力を発揮しながら、英語に自然に慣れ親しみ、体験することができる機会を子どもたちに提供しています。こちらでも毎年定員を超える申し込みが殺到する人気イベントとなっています。

さらに、昨年度はALTの発案により、ハロウィーンの時期に小学生を対象にして「ハロウィーン イングリッシュシャワー」を開催しました。各小学校を通して案内を出したところ、予想をはるかに上回る約120名の参加希望がありました。当日はALTが司会進行をして、ハロウィーンの習慣にちなんだゲームをしたり、仮装大賞を選んだりして、参加した子どもだけでなく、付き添いの保護者も大いに楽しんでいました。事後のアンケートには「ぜひ、来年も実施してほしい」という感想がたくさん書かれていました。

我が市のALTは、授業以外でも子どもたちのためにできる活動を主体的に生み出し、積極的に市に貢献しようとする素晴らしい集団です。任用団体である教育委員会としては、今後も彼らの意欲を活かしながら、地域により貢献できるALT



写真3・4 「ハロウィーン イングリッシュシャワー」で活躍するALT達

の活動を彼らとともに生み出していきたいと考えています。

国際交流員・自治体職員協力交流 研修員の活用

上述のとおり、我が市は2002年に中国雲南省麗江市（当時は麗江地区）と友好都市提携を結びましたが、その前年の2001年度より、「JETプログラム」（注2）を活用し、麗江市からの国際交流員を受け入れています。今日までに8人の国際交流員が我が市において活躍し、9代目の国際交流員をこの6月に迎え入れたところです。

また、2004年からは麗江市とのさらなる交流を深めるために、「自治体職員協力交流事業」（注3）を活用し、同市から「協力交流研修員」をこれまでに11人受け入れてきました。

性質・目的の異なる国際交流員と協力交流研修員の両者を受け入れることにより、我が市にもたらされた効果を紹介します。

国際交流員は、来日前にすでに高度の日本語能力を有し、中国や麗江市との交流事業、通訳・翻訳、市民外国語講座講師、国際交流イベントといった幅広い分野で「即戦力」として活躍してくれました。いわば、国際交流員の受入れを通じて、我が市は麗江市からの支援を得てきた訳です。

こうした麗江市からの御恩に報い、麗江市の人材育成に協力することを考えた我が市にとって「自治体職員協力交流事業」の枠組みは最適解でした。日本語堪能な国際交流員とは異なり、日本語を一から学ぶこととなった協力交流研修員も少

なくありませんが、CLAIRの主催する来日後の約1カ月間の日本語研修により、彼らは基礎的な日本語能力を身につけて、我が市にやって来ます。そして、観光、農業、教育、文化財保護といった現場での実地研修において、彼らはひたむきな姿勢で海綿の如く日本語や日本の文化を吸収していくのです。

協力交流研修員のハングリーな姿勢は、現場の日本人職員にも共鳴し、士気の向上に繋がっています。また、先輩格の国際交流員が彼らのすぐ隣にいて、協力交流研修員は日本語や日本の生活習慣により早く馴染むことができ、国際交流員にも指導役としての「張り」を与えています。

このように麗江市から20人もの職員を迎えることにより、我が市と麗江市、そして両市の職員の間には固い「絆」が結ばれています。このような長い年月によって育まれた友情は、国家間の対立が表面化しても、全く動じないものです。外国人の入国手続きや日本語の指導等には大きな労力を要しますが、CLAIRが上記のような支援を提供してくれていることで、我が市と麗江市の息の長い交流が継続しているのです。

麗江市の「麗江古城」は世界遺産に登録されており、我が市はこれに対し、観光客誘致や文化財保護のノウハウをこれまで提供してきました。我が市の旧市街地も世界遺産への登録を目指しており、今後、両市の職員間における協力関係により、この夢が現実のものとなることを願っています。

（注2）JETプログラム: <http://www.jetprogramme.org/index.html>

（注3）自治体職員協力交流事業(LGOTP) : <http://www.clair.or.jp/j/cooperation/lgotp/lgotp.html>

CLAIR派遣職員の活用

我が市は、戦後の1955年頃から登山基地として徐々に脚光を浴びるようになり、やがて江戸時代の面影を今に残す旧市街地の町並みや日本三大美祭の一つである春・秋の高山祭を訪れる観光客が年々増加するようになりました。また、2005年に周辺の9町村と合併したことにより、日本一の露天風呂の数を誇ると言われる奥飛騨温泉郷や壮大な自然を堪能できる乗鞍岳など多種多様な観光資



写真5 中国料理教室で活躍する元協力交流研修員・和さん

源が新たに加わりました。近年、国内からの観光客は横ばい傾向となりましたが、外国人観光客は顕著な伸びを示しています。市内に宿泊した外国人観光客数は、2005年には8万9,500人でしたが、2010年には18万7,000人となり、僅か5年間で倍増の勢いを示しています。

我が市では、このような追い風を逃すことのないよう、2006年に海外主要国の中でも将来的な観光客誘致が大きく期待できる中国に所在するCLAIR北京事務所に職員を派遣することにしました。彼は、東京本部での1年間の勤務の合間に、中国語研修を受講する機会を与えられた後、北京事務所に2年間勤務しました。彼は、「海外自治体幹部交流協力セミナー（注4）」を担当することにより、中国の地方自治体のキーパーソンの警咳に接する機会を得、また、現地の商社、航空会社、旅行会社といった日本人コミュニティーとの人脈を深めることができました。帰国後、観光課に配属された彼は、中国で得た人脈をフル活用し、对中国の観光PRに大きな役割を果たしました。また、高山市帰任後も、中国人観光客向けの観光パンフレット作成に対する助言をいただくなど、北京事務所からの支援・助言をいただけてきました。

さらに、2007年に、我が市はフランス・ミシュラン社が刊行した日本の観光ガイドブックにおいて、最高評価である「三ツ星」を獲得しました。世界各国の中でも日本文化が古くから受容され、歌川広重ならぬマンガやビデオゲーム、コスプレなど「ネオ・ジャポネズム」に沸くフランスからの最高評価を受け、我が市は大きな喜びに沸きました。

そこで、我が市は、2008年に2人目の職員をCLAIRに派遣することにしました。彼は、同じく東京本部に1年間勤務した後、パリ事務所に2年間勤務し、この4月に帰国したところです。彼は、公共交通政策、観光・商工業振興政策など成熟したフランスの地方自治制度に関する生の情報や、地場産品の販路拡大に関する情報を収集し、交流のあるトロワ市との橋渡し役になるなど、我が市とフランスとのネットワークを拡大しました。

地方財政の厳しさが増す昨今、小規模の自治体が単独で海外事務所を設置するには大きな困難を

伴うが、我が市では、CLAIRを活用することにより、中国・フランスでの高山市のプレゼンスを高めることに成功したのです。

（注4）海外自治体幹部交流協力セミナー: <http://www.clair.or.jp/j/exchange/shohei/seminer1.html>

今後の展望について

我が市では、この4月に副市長直轄の「海外戦略室」を新設し、これまで観光課、商工課、農務課、畜産課、秘書国際課といった各部署で担われてきた国際業務を同室において組織横断的に取扱うことにしました。同室には、先ほど紹介したパリ事務所に派遣した職員を配属し、CLAIRでの人脈や経験を活用してもらうことを期待しています。

同室の三本柱は、①外国人観光客誘致、②地場産品の輸出拡大、③国際交流を通じたブランド力の向上を「戦略的」に実施することです。国内市場が縮小し、都市間競争が激化する中で、都市のブランド力を国内外で高め、市外からの「外貨」を獲得するための施策を練ることは多くの自治体に共通する課題ではないでしょうか。

CLAIRにおいても、こうした自治体の共通課題に応えるため、昨年度に「経済交流課」が設置され、地方自治体の海外における経済活動を支援する体制（注5）が整えられたことは非常に心強いことです。我が市としても、CLAIRが提供する元商社マンによる「経済アドバイザー」制度等のサービスを活用し、その成果をCLAIRホームページ上にある「経済交流事業先進事例」の欄で皆さんにご披露できるよう取り組んでいきたいと思えます。

我が市では、以上のような様々な形でCLAIRを活用してきましたが、共通して言えることは、いずれの分野においても我々と同じ立場にある地方自治体から派遣されたCLAIR職員から「共通の視点」で助言や提案をいただけることに対する信頼感・安心感です。CLAIRは「地方自治体の共同組織」、いわばすべての地方自治体の共通インフラであることを再認識いただき、各地の地方自治体がCLAIRを活用することにより地域の活性化・国際化が進展することを期待しています。

（注5）自治体の経済活動の支援: <http://www.clair.or.jp/j/economy/index.html>